

大項目	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(1) 自己収入拡大への取組							
【年度計画】								
機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課			事業責任者	事務局長 山下登			
【実績・成果】								
展示事業等収入については、下表のとおり1,917,262千円となり、目標を上回った。								
		目標値	平成30年度					
展示事業等収入		1,538,510千円	1,917,262千円					
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。 ※受託研究・受託事業を除く。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
自己収入額 (展示事業等収入)	1,917,262千円	1,538,510千円	A		1,730,218	1,817,119	1,714,563	2,260,173
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：A		計画どおり取り組みを実施しており、目標を上回ることができた。						
【中期計画記載事項】								
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(略)競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：A		計画どおり取り組みを実施しており、目標を上回ることができた。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(2) 外部資金の獲得							
【年度計画】								
機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課				事業責任者	事務局長 山下登		
【実績・成果】								
寄附金については、下表のとおり 827,718 千円となり、目標値を上回った。								
	目標値	平成 30 年度						
寄附金	439,574 千円	827,718 千円						
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
寄附金等額 (その他寄附金等)	827,718千円	439,574千円	A		789,808	795,744	753,812	732,210
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。							
【中期計画記載事項】								
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(中略)競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を様々な年齢層に向けて開催した。 ②施設の貸し出しについては、ウェブサイトでの周知とともに、リピーターを増やすべく会場の下見対応、当日利用時などできめ細やかなサービスを心がけるなど、利用者の満足度向上に努めた。 ③30年度も入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマ、ビアガーデンなど29件のイベントを実施し、約16,000人の参加があった。また国際交流イベントとして「留学生の日」を実施し無料観覧(総合文化展のみ)のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い、803人の来場があった。								
【補足事項】 ① 企業等のパーティー、撮影(映画・ドラマなどのムービー、雑誌等のスチール)、茶室・講堂の有効利用を図った。 ・企業等のパーティーなどユニークベニューの収入は、14件 51,288千円であった。(29年度実績14件 43,077千円) ・撮影による収入は298件 25,687千円であった。(29年度実績336件 25,865千円) ・29年4月より、業務効率化と民間の接客対応を取り入れるため、撮影業務に加え、講堂と茶室の貸し出しについても外部委託を開始した。 ② 新規来館者の獲得を図るため、29年度に引き続き「博物館で野外シネマ」と「トーハク BEER NIGHT!」を実施し、それぞれ5,125人(2日間実施予定のうち雨天のため1日中止)、11,286人(4日間実施予定のうち雨天のため1日中止)の来場者があった。さらに、この2つのイベントに不可欠なレジャーシートを、当館公式キャラクターを使用し制作・販売した(販売実績:743枚、344千円)。								
								
「博物館で野外シネマ」実施の様子		「トーハク BEER NIGHT!」実施の様子						
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年 変化	26	27	28	29
施設の有効利用件数	781件	-	-		664	652	747	866
うち有償利用件数	485件	-	-		402	434	529	581
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 施設の有効利用については外部委託した民間業者とも緊密に連携し、より積極的な受け入れ体制を整えることができた。特にロケーション撮影については、建物別の撮影実績を分析し、ウェブサイトでの周知方法を定期的に見直すなどの対応を行った。 ユニークベニューについても大型案件の受け入れに成功したことにより、施設の有効利用収入は、29年度以上の収入を確保することができた。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 重要文化財を含む伝統ある博物館の施設、広大な敷地を有効に活用するべく、広報、リピーターの確保等積極的に行った結果、30年度も堅調な実績を上げることができた。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 数馬厚人					
【実績・成果】 (博物館4施設) ① 展覧会に関する講演会、土曜講座を開催したほか、対談イベントや映画上映会(解説つき)を開催した。 ② 外部サイトにロケーション撮影の案内を掲載したほか、明治古都館・グランドロビーなどの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内(利用時間、料金等)を当館ホームページに掲載した。 ③ 従前の「京都・らくご博物館」のほかに、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、特別展「京のかたな」の割引観覧やグッズの無料配布を実施した。また、大学・企業・近隣地域等と連携し、講堂や庭園でイベントを開催した。								
【補足事項】 ① 講座・講演会等 ・「森見登美彦氏、京都国立博物館で語る」 場所：平成知新館講堂 参加人数：178人 応募者数：720人 小説家の森見登美彦氏をお招きし、対談形式で作品に登場する京都の名所と博物館の繋がりを紹介した。 ・「映画上映会「羅生門」」 参加人数：84人 浅湊毅連携協力室長による羅生門に関する文化財の紹介を行った後、映画上映会を開催した。 ・「明治古都館特別公開」 参加人数：2,500人 ② 外部への会場提供 ・映像(ドラマ、CM等)・商品カタログ等の撮影(平成知新館、庭園、茶室)、茶会の開催(茶室)、会議・講演会等の開催(講堂・会議室・研修室)、式典・パーティ等の開催(平成知新館グランドロビー、庭園)。 ③ コンサート等のイベント ・「京都・らくご博物館」4回 場所：平成知新館講堂 参加者数：675人 ・「留学生の日」 場所：平成知新館 参加者数：39人 ・「京都女子大学ファッションショー・プロジェクトマップ」 場所：庭園・水盤テラス 参加人数：300人 ・「いけばなパフォーマンス」 場所：明治古都館中央ホール 参加人数：232人 ・「芸舞妓 春の舞」 場所：講堂 参加人数：364人 ・「日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」開催記念「中国茶会」 場所：茶室 参加人数：192人 ・「堪庵 春の呈茶席」 場所：茶室 参加人数：250人 ・「陶磁器マルシェ」 場所：庭園 参加人数：2,461人								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29
施設の有効利用件数	165件	-	-		63	112	105	122
うち有償利用件数	143件	-	-		57	104	93	86
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ロケーション撮影については、「ロケスポット京都」などの外部サイトに案内を掲載したほか、パンフレットを作成し、ホテルや映像制作会社に送付した。明治古都館や平成知新館グランドロビーの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内を当館ホームページに掲載し、外部に対して積極的に広報を行った。ロケーション撮影については30年度から規則が適用されたこともあり、利用金額・件数ともに29年度と比べ大幅に増加した。 入館者拡大のために、無関心層を取り込むための新たなイベントを試みた。30年度は特に、平常展・庭園開放日の集客を図るため、講堂・庭園・茶室において展覧会や文化財に関連したイベントを実施した。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトでの周知等の新たな広報手段の活用や規則の整備に取り組むとともに入館者数拡大のための新規イベントを企画し、本来業務に支障のない範囲で実施した。その結果、中期計画どおりに順調に成果を上げている。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	臣守常勝				
【実績・成果】 (博物館4施設) ①公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 ②小学生を対象に世界遺産学習を実施した。 ③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。								
【補足事項】 ①講座・講演会 公開講座(14回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(77回)、特別鑑賞会(8回)、文化財保存修理所特別公開(3回)等 ③イベントの実施 ・講堂：「あおによしならのみやこでヒストリア」、「親子で学ぼう奈良の仏像」、「夏休み親子新聞教室ではがき新聞づくり」、「第70回正倉院展親子鑑賞会」、「文化財保存修理所特別公開」、「お水取り展鑑賞とお松明」 ・地下回廊：「オリジナル手芸作品展示」、親子ワークショップ「織ってみよう！糸のみほとけ」、親子ワークショップ「オリジナルうちわ作り」 ・会議室：ワークショップ「天寿国繻帳の繻い方を体験しよう」 ・写場：「仏像を撮ってみよう！」 ・展示室：「朝活 心静かにみほとけを観る」、「綴織実演」 ・庭園・茶室：「庭園散策ツアー」、「お水取り講話と粥の会」 ・敷地内：「せんとくんが奈良博にやってくる」、「第70回正倉院展記念音燈華スペシャルコンサート」等 ○会場提供 ・講堂：「奈良学園大学新入生オリエンテーション」、「奈良シニア大学記念講演」、「なら国際映画祭」 ・仏教美術資料研究センター：CM撮影 ・庭園・茶室：「第六回珠光茶会」、「なら瑠璃絵」 ・敷地内：「なら燈花会」、「第3回春日野音楽祭まちなかステージ」、「奈良市アートプロジェクト」等								
								
第70回正倉院展記念コンサート								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29
施設の有効利用件数	112件	-	-		117	117	113	111
うち有償利用件数	18件	-	-		34	33	21	19
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。特別展「糸のみほとけ」の関連イベントとして展示室内で実施した「綴織実演」では、実際に技術者が織機で作業している様子を来館者に見学していただくことで、展示品に関する知識を深めていただいた。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コンサート会場として施設を利用したり、地元自治体等と連携してイベント実施することで博物館の認知度を向上させることができている。また、旅行会社と連携して、解説付き展覧会鑑賞ツアーや仏像館の夜間貸切見学を実施することで自己収入を獲得することができた。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組																															
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進																															
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。																																
担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長 山野孝 課長 國谷勝伸																													
【実績・成果】 (博物館4施設) ①特別展及び特集展示等に関する講演会・講座等を開催した。 ②ミュージアムホール、茶室及び研修室等の外部団体への貸出を積極的に行った。 ③落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。																																
【補足事項】 ①展示関連の講演会等の開催 1) 特別展及び文化交流展(特別展示) 関連イベント ・特別展「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」関連講演会「印象派の至宝を楽しむ ビュールレ・コレクションの名画の数々」(5月19日開催 参加者数:210人) ※上記を含む特別展関連講演会 計5回開催 ・特集展示「京都仁和寺観音堂 千手観音像とその仲間たち」記念講演会「京都仁和寺の歴史と観音堂」(7月22日開催 参加者数:80人) ※上記を含む特集展示関連講演会 計7回開催 ②外部団体への施設の貸出 ・9月16日 太宰府市民茶会(太宰府茶道文化連盟) ・10月28日 筑紫地区未来フォーラム2018(一般社団法人つくし青年会議所主催) ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートの開催 ・ミュージアムコンサート「弦に想いをのせて」(4月21日 参加者数:150人) ・江戸糸あやつり人形劇(8月18日 参加人数:296人) ・みゅーじあむ寄席(31年1月19日 参加者数:250人) ・これまで有償貸与の対象ではなかったエントランスホールの貸出についての制度化の検討を開始した。																																
<table border="1"> <tr> <td>【定量的評価】項目</td> <td>30年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評定</td> <td rowspan="3">経年 変化</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>施設の有効利用件数</td> <td>328件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>321</td> <td>392</td> <td>355</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>うち有償利用件数</td> <td>75件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>120</td> <td>118</td> <td>116</td> <td>96</td> </tr> </table>								【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29	施設の有効利用件数	328件	-	-	321	392	355	280	うち有償利用件数	75件	-	-	120	118	116	96
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29																								
施設の有効利用件数	328件	-	-		321	392	355	280																								
うち有償利用件数	75件	-	-		120	118	116	96																								
【年度計画に対する総合評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 会議・昼食利用のための会議室の貸与及び展示・講演会のためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を順調に履行できた。																												
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。																																
【中期計画に対する評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 会議室に関しては会議や昼食利用等の貸与を定期的に行い、有効利用の推進を順調に履行できた。一方、ミュージアムホールに関しては特別展「ビュールレ・コレクション」の待機列整理のために6月から7月にかけて長期間使用することができず、貸与件数は伸び悩んだ。31年度以降も引き続きコンサートや講演会等を積極的に受入れることで、施設の有効利用の推進に取り組む。																												



「江戸糸あやつり人形劇」の様子

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。								
担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長 外間尹隆					
【実績・成果】 ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを30年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。また、本事業はbeyond2020プログラムとして認証を受け実施することができた。 ・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。								
【補足事項】 ・第52回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」 ・有償貸付例：「伝統建築工匠の技」の保存、活用及び発展を考える（第1回） （4月21日、「伝統建築工匠の技」の保存、活用及び発展を推進する会）								
								
オープンレクチャーの様子								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年 変化	26	27	28	29
施設の有効利用件数	198件	-	-		164	186	185	200
うち有償利用件数	13件	-	-		12	7	9	10
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の有効利用の促進を図るべく、当研究所の会議室及びセミナー室の有償貸付を実施した。例年開催しているオープンレクチャーについては、beyond2020プログラムとして認証を受けて実施することができるなど、施設利用の拡大を図ることができた。なお、外部機関への有償貸付は13件実施した。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間3年目である30年度は、29年度に引き続き、beyond2020プログラムとして認証を受ける事業として第52回オープンレクチャーを実施することができた。31年度も同様に、当研究所の保有資産の有効利用を推進する予定である。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。								
担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長 菊本恵二					
【実績・成果】 (文化財研究所2施設) 当研究所ウェブサイトにて講堂等の一時使用について、掲載し、広く周知して、利用者の獲得を図った。								
施設名		30年度						
平城宮跡資料館 講堂		80 件	(内 有償貸与 6 件)					
平城宮跡資料館 小講堂		142 件	(内 有償貸与 6 件)					
飛鳥資料館 講堂		5 件	(内 有償貸与 0 件)					
その他 (仮庁舎・収蔵庫棟)		20 件	(内 有償貸与 17 件)					
合計		247 件	(内 有償貸与 29 件)					
【補足事項】 29年度実績								
施設名		29年度						
平城宮跡資料館 講堂		137 件	(内 有償貸与 7 件)					
平城宮跡資料館 小講堂		136 件	(内 有償貸与 11 件)					
飛鳥資料館 講堂		54 件	(内 有償貸与 0 件)					
その他 (仮庁舎・収蔵庫棟)		20 件	(内 有償貸与 17 件)					
合計		347 件	(内 有償貸与 35 件)					
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評定	経年 変化	26	27	28	29
施設の有効利用件数	247件	-	-		286	256	296	347
うち有償利用件数	29件	-	-	26	43	52	35	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ・奈良県のイベント（天平祭等）の内容の見直しで利用されなかったこと等が原因で講堂、小講堂の利用件数が減少したが、他の施設においては、29年度同様、貸与を積極的に実施し、自己収入の獲得に貢献した ・31年度以降については、30年度の減少理由の改善案を検討し、利用者のニーズ等に沿った施設の有効利用の推進を本来業務の支障の無い範囲で実施する。						
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ・30年度も29年度に引き続き、一般利用申し出に対する有効利用の推進等を行い、自己収入の増加を図った。今中期計画においても、本来業務に支障の無い範囲で実施しながら、前中期目標期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。						

中項目	3. 決算情報・セグメント情報の充実等							
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等							
【年度計画】 独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。								
担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長 香取雄太					
【実績・成果】 29年度に引き続き、29年度決算（30年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（27年1月改訂）に従い以下のとおり公表情報の充実を図った。 ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。 ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	30年度実績	目標値	評価	経年変化	26	27	28	29
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。							
【中期計画記載事項】 機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。							